第３次地域福祉活動計画
「団地」推進チーム

活動事例集

～団地や集合住宅での地域活動のヒント～

もくじ

活動事例
市営本地荘の取り組み　・・・　１
市営本地荘　移動販売　・・・　２
市営本地荘　コミュニティカフェＰ－ｃｅ　・・・　３
市営本地荘　なごみサロン　・・・　４
市営緑が丘住宅　ふれあい喫茶　・・・　５
ＵＲ瀬古団地　モーニングカフェ＆自主防災　・・・　７
県営幸心住宅　防災訓練　・・・　９
そのほかの工夫紹介　・・・　１０

交流や課題解決のためのヒント集
団地内サロンの開催　・・・　１２
移動販売車の誘致　・・・　１３
地域支えあいマップ　・・・　１４
その他の情報　・・・　１５

安心・安全な快適なまちづくりを目指して

誰もが集える交流の場、明日につながる場づくり

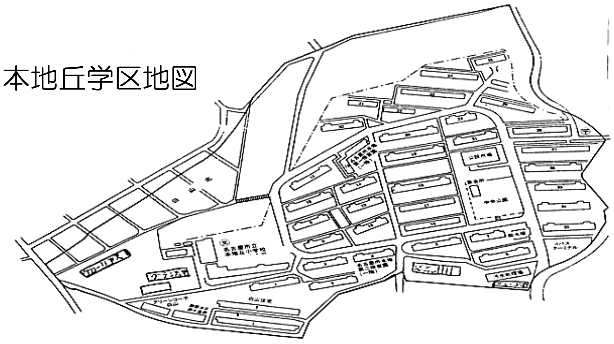
市営本地荘の取り組み

全３５棟からなる市営本地荘は、周りを尾張旭市に囲まれた名古屋市外れの高台に位置した、市内でも最も大きな団地のひとつ。５棟毎の町内に分かれており、７つの町内会があります。少子高齢化が著しく、外国人人口比率も高くなっています。それゆえに様々な地域福祉課題を抱えています。

～他の団地と大きな違い～

市営本地荘の１町内から７町内が所属する本地丘学区は、小学校東側に建つ本地荘が９割を占めています。ですから、様々な地域福祉課題の解決に向けた活動を学区で取り組んでいます。

本地丘学区地図



～本地丘学区の２大まつり～

納涼盆踊り大会（7月）

春まつり（3月）

老若男女・国籍関係なく、どちらのまつりも多くの学区住民でにぎわっています。

～本地丘学区の主な福祉事業～

◆買い物支援事業
　　移動販売の開催・配達支援
◇サロン事業
　　コミュニティカフェ P-ce の開催
　　なごみサロンの開催
◆ふれあい給食事業
　　ふれあい給食サービス
　　特別献立の実施
◇高齢者と子どもの交流事業
　　小学生と高齢者の会食会（小学校主催）
　　ランチ会（なごみサロンで実施）
　　クリスマスカードのお届け
◆地域支えあい事業　　談窓口、生活支援

本地丘学区地域コミュニティ活性化プロジェクト検討会議

旧公設市場跡地を「地域活性化を図るための地域福祉の拠点」として活用するべく、『旧公設市場跡地活用準備委員会』を平成 24 年度に学区内で立ち上げ、何度と勉強会を重ねて市への市場跡地の貸出し要請を行ってきました。平成 29 年度に学区の念願である市場跡地の貸出し要請が本格的に動き出し、市住宅都市局・住宅供給公社・市民経済局・区役所・社会福祉協議会のご協力を得て『地域コミュニティ活性化プロジェクト検討会議』が発足されました。学区内では、移動販売やサロン等の他、地域福祉の拠点としての活用方法や事業計画の検討を重ねています。

＜買い物支援事業＞移動販売

市営本地荘では、団地内の公設市場に入っていたスーパーが撤退してからというもの、多くの住民が少し離れたスーパーまで買い物に行かなくてはならなくなりました。車や自転車に乗らない高齢者にとっては、重い買い物荷物を持って坂を上って帰宅するというのはとても大変な作業です。そんな住民の悩みを解決するべく、平成23年８月に移動販売業者の誘致を行い、旧公設市場跡地の軒下を活用して週１回の移動販売開催を始めました。

開催日時
　毎週土曜日１０：００～１１：３０
開催場所
　旧公設市場跡地

↑始めた頃の移動販売風景

～開催当初から継続した取り組み～

１、配達支援

持病を抱えたり足腰の弱ったご高齢者にとって、米や根菜類の重い荷物を購入したものの持ち帰るのは一苦労です。そこで、希望者には住民ボランティアによる玄関先までの配達を行っています。

２、ポイントカードの導入

利用促進のために、ポイントカードの導入をしました。移動販売で買い物をするごとにスタンプを押してもらい、スタンプがたまると好きな業者さんのところで景品と交換してもらえるというものです。
ポイントカードの作成は学区で担当、景品は各業者さんに一任しています。

～運営・担い手～

始めた当初は連合自治会で運営し学区役員と数名の住民ボランティアで開催していましたが、学区役員の負担軽減を考え、学区連絡協議会所属団体の協力を得ることに・・・。現在は学区連絡協議会で運営しており、所属各種団体の当番制による会場の準備・商品陳列等のボランティア活動を行っています。

現在の移動販売風景

平成２８年度から旧公設市場建物内を使用出来るようになり、雨風がしのげるようになったことはもちろん、毎回出し入れをしていた机等の準備が軽減され、ボランティア・利用者ともに助かっています。
現在７業者を誘致し週１回の開催ですが、今後、開催回数を増やしたり取り扱い商品の拡充を検討しています。

＜サロン事業１＞コミュニティカフェＰ－ce（ピース）

　地域福祉活動の推進を図るため、地域での孤立・閉じこもりの防止、健康・生き甲斐づくり、地域住民との交流や仲間づくり等を目的として開催を始め、早いもので６年目を迎えました。

開催日時・・・毎週土曜日　９：００～１１：３０
開催場所・・・本地荘第一集会所
利 用 料・・・300 円もしくは 350 円（ドリンクによる）
　　　　　　　チケット６枚綴り 1,500 円
　　　　　　　※ドリンクにトースト・ゆで卵・サラダ付

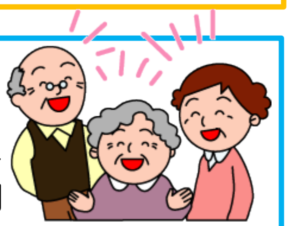
～担い手の確保～

「P-ce 運営委員会」を立ち上げ、P-ce 専任のボランティアを掲示板や学区広報紙にて募集。その後は、口コミで広がり、協力を申し出てくれる方が出てきました。

～運営経費～

　利用者からの利用料と市社会福祉協議会のサロン助成金、地域福祉推進協議会やつながり応援事業の助成金の一部で賄っています。

～楽しく参加してもらうために～



＜ポイントカードの発行＞

本地丘コミュニティカフェ
P－ce
参加ポイントカード

NO.	氏名

お会計の際にお出しください

　市社会福祉協議会のサロン助成金申請に名簿提出が必要なことから、年度初めに開催日の入ったカードを発行しています。登録番号はなごみサロンの参加カードと連携させており、登録者名簿で参加をチェックすることで見守り活動にも役立っています。
また、年度初めに、前年度の利用数に応じた参加賞を出していることもあり、登録者及び利用者が増えています。

＜定例イベント＞

第１土曜日・・・気まぐれサービスデー
第２土曜日・・・健康チェックコーナー
第３土曜日・・・ミニ昭和博物館コーナー

＜年中行事イベント＞

１月…七草がゆ
５月…母の日カーネーションプレゼント
６月…父の日バラプレゼント
７月…七夕短冊飾り
８月…暑気払いビアガーデン
９月…敬老の日プチプレゼント
１０月１９日前後…P-ce 誕生会
１２月…クリスマス

利用者の方々に対しては、上記の他にも色々な催しを行っています。仕入れの関係と代表者の気まぐれで、第１土曜日以外にもサービスがあったり・・・。
ボランティアの方々とは、毎回開催後に残り物を賄いとして、また、年度初めの総会や忘年会など懇親会を行い、ボランティア間の交流を図っています。

＜サロン事業２＞なごみサロン

市社会福祉協議会のサロン助成金申請に名簿提出が必要なことから、なごみサロンでは「利用者登録」を行っています。登録をされた方には、登録番号と開催日時が入った『参加カード』と『健康チェックファイル』を個々に作成して、継続利用及び継続的な健康管理を促しています。また、P-ce ポイントカードの登録番号と連携させていて、登録者名簿によるチェックを毎回行うことにより、見守り活動にも役立っています。

～担い手の確保～

平成 27年度まで実施のなごみクラブからの流れで、保健環境委員会に偶数月、民生児童委員協議会に奇数月を担当してもらい、給食ボランティアと P-ce ボランティアにも手伝いをお願いして実施しています。

～運営経費～

市社会福祉協議会のサロン助成金、地域福祉推進協議会やつながり応援事業の助成金の一部で賄っています。

開催日時
毎月第１・第３金曜日
13:00～13:15　受付、血圧・体組成測定
13:15～14:00　各種講座
14:00～14:30　茶話会
開催場所
本地荘第一集会所
利用対象者
学区在住の 65 歳以上
利 用 料　原則無料

高齢者と子どもとの交流事業 ～トワイライトスクールと協同～

＜ひとり暮らし高齢者へクリスマスカードプレゼント＞

平成 18 年度のクリスマスから、学区のひとり暮らし高齢者の方々へ、子ども達による手書きメッセージのクリスマスカードに手作りストラップのプチプレゼントを添えてお配りしています。始めた当初は 65 歳以上が配布対象で子ども会事業のクリスマス会で実施していました。しかし、配布対象者の急増と子ども会会員の減少に伴い継続の危機に・・・。そこで、平成 22 年度から配布対象年齢を 70 歳以上とし、小学校トワイライトスクールのクリスマス会で行っています。子ども達からのクリスマスカードを楽しみにしてくださっているご高齢者が多く、毎年お礼の電話やお手紙を沢山いただいています。

＜交流ランチ会＞

なごみサロンの企画の１つで、年１回ですが、高齢者と児童との交流ランチ会を 2 年前から始めました。昨年度は集会所に巨大流しそうめん台を設置して流しそうめん大会を、２回目は昭和時代のお子様ランチをテーマに行い、参加者達の明るい笑顔と笑い声で溢れていました。

＜敬老の日メッセージカード＞

トワイライトスクールの参加児童に、学区在住のおじいちゃん・おばあちゃん宛てにメッセージを書いてもらい、コミュニティカフェ P-ce で配布をしています。子ども達からの温かい手書きメッセージに、喜んでいただいています。

住民が集える交流の場づくり

あいさつのできる関係づくり

市営緑ヶ丘住宅 ふれあい喫茶

▲市営緑ヶ丘住宅

（概要・目的・開催日時）
毎月第３日曜日　午前９時～１１時
緑ヶ丘住宅　第２集会所にて

第３日曜日は、団地内の清掃日なので皆さんが出やすいということで、団地内の集会所で開催しています。参加費は２００円でモーニングセットを出しています。
野菜の販売も行っていて盛況です。
ボランティアは清掃に出た人で順番に担っています。

やってよかった！(^0^)

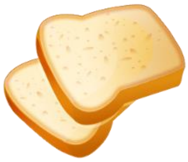
・高齢者の方の話の場ができた。
・高齢者の安否確認ができる。
・運営側も楽しみながらできる。

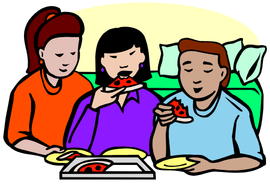
ここがたいへん！(>_<)

・月1回ですし、若い方も運営に関わってくれているのでそれほど負担はない！

（運営形態・経費）
自治会の会費と１人２００円（コーヒー代）の参加者負担で運営しています。

（担い手の確保）
声かけして都合のつく方にお手伝いしてもらうなど、協力しながら活動しています。





ここがミソ！

・年に１～２回、日用品等の景品を用意し参加者へくじ引き抽選会をおこなっています。100 杯用意したコーヒーがなくなる程、たくさんの人が集まることもあります。

・ちょっとした野菜を販売しています！

・１月はぜんざいをサービス

（メニュー　イチオシポイント）

1. コーヒー・パン・ゆで卵にヤクルトが付きます（大人菓子）。
2. コーヒーはおかわり OK。
3. 子どもさんには、子ども用お菓子を出しています。

☆参加者の声

・近くでコーヒーが飲めて、みんなと話ができるのが良いです。

・月に1回元気かどうか確かめられる。

・集まれる“場所”があるのがいい。来ないと孤立しちゃう。

・あったかい雰囲気がいいですね。

☆準備

前日の午後からパンやお菓子の買い出しに行きます。

☆お手伝い

一年に2～3回、お手伝いしていただいております。活動を知った副棟長さんたちがお手伝いを買って出てくれました。副棟長さんたちのお手伝いはとっても心強いです！

☆運営者から

・皆さんの元気な様子が見られてうれしいのが何より！！
これ以外の何ものでもないですね。

気軽におしゃべりカフェ&防災対策

集会所でお買い物もできます!!

瀬古団地モーニングカフェ&自主防災

UR 瀬古団地

毎週水曜日朝8時～11時頃、瀬古団地集会所にてモーニングカフェを開催。

目的は住民同士の横のつながりをつくることにより、団地内での人との交流を盛んにさせること。交流が盛んになることによって、高齢者の孤立や子育て世代の孤立も防げると考えました。

カフェ開催時には移動販売車や野菜などの販売業者も呼び、近くにスーパーのない瀬古団地の問題も解消しています。

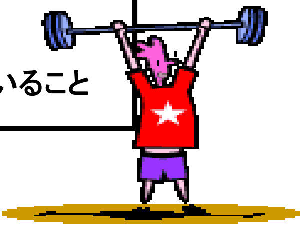
防災にも力を入れ、災害時の対策も団地を挙げて行っています。

やってよかった!(^0^)

・参加者の顔見知りが増えて友人ができた
・緊急の時に助け合う人ができた
・参加者でありながら、担い手の手伝いをしてくれる人が増えた

ここがたいへん!(>_<)

・運営資金のやりくり
・少ない運営者でやっていること



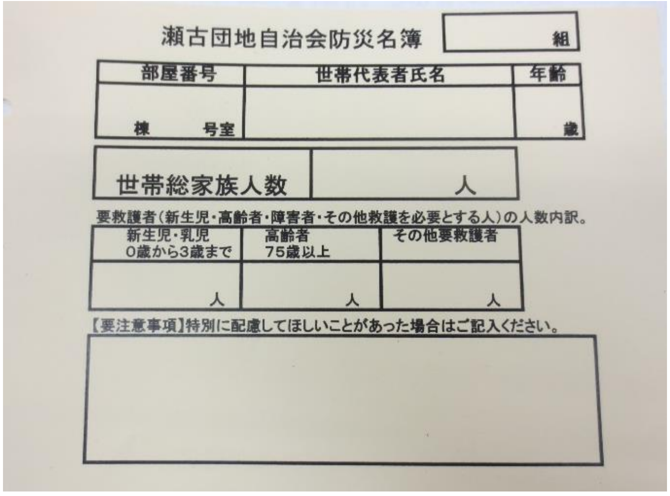
カフェに参加する皆さん

カフェの日にはコープあいちさんも駆けつけます。

ここがミソ！

災害時に誰でも分かるように、防災マニュアルを作りました。年に１回の町内会費集金の際には１人１人に声をかけながら災害時の行動を伝えています。また、助けの必要な人には申し出てもらい、いざという時ひと目でわかるように、黒板を安否確認ボードにしています。

赤いシールは高齢の方、黄色いシールは赤ちゃん。
黄色の紙は空き部屋です。



瀬古団地自治会防災名簿　　組

部屋番号	世帯代表者氏名	年齢
棟　号室		歳

世帯総家族人数	人

要救護者（新生児・高齢者・障害者・その他救護を必要とする人）の人数内訳。

新生児・乳児 0歳から3歳まで	高齢者 75歳以上	その他要救護者
人	人	人

【要注意事項】特別に配慮してほしいことがあった場合はご記入ください。

「瀬古団地自治会防災名簿」世帯人数や要救護者の人数内訳を聞き取っています。

聞き取り票はこれ！

この防災名簿をもとに上の安否確認ボードを作っています。

災害時の助けの要・不要はすべて自己申告で、助けが欲しい人は申し出てもらう仕組みです。

なかには書くのが嫌という人もいますが、希望する人で、了承を得た人は安否確認ボードに貼りだしています。

こんなことがありました。

★カフェに来ている人のなかで自宅で体調が悪くなってしまった人が、カフェでお友達になった人に連絡をして救急車を呼んでもらい、大事に至らなかったことがありました。顔見知りになって番号を交換していたため、早く連絡ができ、助けを求めることができました。

★カフェは病気や病院などの情報交換の場にもなっていて、何気なく話したお悩みが「私もそれで病院へ行った」「〇△の病気かも知れないよ、病院へ行った方がいいよ」となり病気の早い発見に繋がることもしばしばありました。

★夏休み期間は子ども連れのママ達も来て、子どもの成長をみんなで喜んでいます。

☆利用者からの言葉

カフェがお休みのとき、
「カフェがないと寂しい！」と言われたのが嬉しかったです。

☆運営者から

ポイントはとにかく続けること！
特別なイベントを組まずにお茶とお菓子だけで、おしゃべりをしに来てもらいます。自分たちの住む団地への愛情と、毎週お待ちしています、という姿勢で続けています。

住民同士のたすけあい活動

おたがいさまの関係づくり

県営幸心住宅防災訓練

▲県営幸心住宅

（概要・きっかけ・目的）

　幸心住宅に住んでいる人を対象に、ゴミ出しなどのちょっとしたお助け活動をするために社協と連携して平成２５年に立ち上げ。

　４人の発起人と民生に協力を得て１０人のメンバーからスタートしました。

　現在では防災訓練や新しくサロンを開いて活動を続けています。

　幸心住宅に住んでいる人を対象に、毎年 10 月に防災訓練を実施。高齢や障害のため、災害時に特に助けの必要な人を組ごとで重点的に避難誘導します。

　消防署や区役所と協力して避難訓練を行っています。もともとはボランティアグループ「幸心住宅お助け隊」での主催でしたが、その必要性が認められ、平成 27 年度からは自治会主催に切り替えて継続しています。

防災訓練スケジュール

　消防署や区役所、いきいき支援センターなどの協力を得て、防災に関する講演や消火器訓練等もやっています。

　来年度からは自治会主催で行う予定です（H26.12 現在）。

やってよかった！(^0^)

　お助け隊で開いたサロンには毎回２０～２５人の人が参加してくれます。子どももたくさん来るのでにぎわっています。

ここがたいへん！(>_<)

　お手伝いしてくれる人や、メンバーがなかなか増えないことです。

そのほか、おたすけ隊で行った活動

・ごみだし
・認知症講座
・防災訓練
・防災講座

本地荘やＵＲ瀬古団地の取り組みも見学にいきました。

（運営形態・活動資金）

　学区・自治会からの補助金、老人クラブの助成金などを使って運営しています。

　月に一度、定例会を実施しています。

そのほかの工夫紹介します

【森孝西学区香流荘町内会】

★もちつき大会
　子ども会、老人会、自治会で協力して毎年行っています。

【志段味西学区青山台住宅自治会】

★クリスマスに 12 歳以下の子どもたちにお貸しの詰め合わせをプレゼント

　子ども会に加入がないため、子どもたちと接する機会をつくるよう、工夫しています。

・やってよかったことは？
　親御さん達からは、助かっている等の声、子どもたちは喜んでくれるのでやって良かったと思う。

・心がけていることは？
　事情により、子ども会に入れない子どももいるので、住宅独自で子どもたちにお菓子をプレゼントするようになった。子どもは４０人もいるので大変だが、直接取りに来てくれる子もいれば、親御さんや友達経由で渡すことも。

【小幡学区喜多山西住宅自治会】

★声かけ、あいさつ運動をしています
　住宅内での声かけ、あいさつ運動をしています。

★もちつき大会
・どんなことをしているの？
　元々は住宅内でお祭りを開催していましたが、それがなくなってしまいコミュニケーションが取りにくくなってしまったので、代わりにもちつき大会を始めました。しかし、もちつき大会も決まった人しか来なかったため、よりコミュニケーションを取れるようにはどうしたらいいかとお餅を配ることを考えた。

・心がけていること、やってよかったことは？
　お餅を１キロずつ全戸に配っているが、大変評判が良いです。喜んでもらえることをしたいと思っています。

・地域の人からの声はある？
　住民とのコミュニケーションを取れるよう、町内会長が率先して声かけなどをしています。月１回の清掃の際に顔を合わせた人に声かけています。顔を見ない人については「あの人どうしてる？」、など聞いているので、状態が見えて良いです。
　８年くらい自治会長をしているが、変わってきたと感じる。顔を見ると声をかけてきてくれる人も増えました。

そのほかの工夫紹介

【県営大森向住宅自治会】

★住民同士の親睦のため、１５年ほど前から住宅自治会で１０月に団地まつり、１２月にもちつき大会をしています。
　高齢者が多いため、常に声をかけあって、お互いに体調など気にかけています。

↑餅つき大会。杵と臼を使って、本格的です。

※住宅の概要・運営者について等あれば追加

↑なごやかクラブ（老人会）の皆さんの協力も。

☆やって良かった点

・近所の方の顔が分かるようになりました。掃除のときには隣同士のおしゃべりも増え、交流のいい機会になっています。

ここがミソ！工夫している点

★参加者を増やす工夫

・１２月の第３日曜日には、「餅つき大会」を行っています。餅つきでは全員にお餅のプレゼントをしています。

・１０月の第３日曜日には「団地まつり」を行っています。祭りでは、出店の焼きそば・みたらし・わたがし・お茶や水などの引換券があり、それを楽しみにたくさんの人が来てくれます（一部有料もあります）。抽選で５kgのお米が８０名に当たるので、それを楽しみにしている方も多いです（平成２９年度まで実施）。

・団地内の参加者が少ないが、住宅の定期清掃日に合わせて実施することで、日にちを分かりやすく、参加しやすくしています。

団地内で住民同士の交流を図るアイディア（例）

団地内サロンの開催

1　団地内サロンとは？

団地内の集会所等を利用して開催するサロンのこと。

住民が集まってお茶やおしゃべりを楽しみながら過ごせる憩いの場。

横のつながりの薄れやすい団地において、地域とのつながりをつくる機会にもなります。

2　サロン開設までの一般的な手順

①協力者を募る … 一緒に活動してくれる仲間を集めましょう。

↓

②開催日・会場を決める … 参加者も運営側も無理なく開催できるように。

↓

③サロンで何をするか … お茶、おしゃべり等々、気軽に参加できる内容を。

↓

④参加者を募る・呼びかける … ご近所で声かけしたりチラシをつくる。

↓

⑤始めてみる！！

3　サロンをつくるときに活用できる助成金

〇区社協たまり場助成金

⇒新規開設サロンの運営費の一部を助成します。

〇サロン開設経費助成

⇒新たにサロンを開設する際の備品等経費の一部を助成します。

〇サロン運営助成金

⇒サロンを運営するための会場費や講師料等に充てる経費を助成します。

★★助成対象となるかどうかは、サロンの「実施回数」、「参加者の人数」、「参加対象者」等の条件があります。また助成金の種類によって助成額や助成期間も異なります。（H30.11 現在）

4　サロンを見学したい

現在、守山区には地域の方やボランティア、施設などさまざまな担い手によるサロンが 102 ヶ所あります。もちろん集合住宅の集会所で行われているサロンもあります。サロンをやってみたい、一度どんなものか見てみたい、など、サロンに興味のある方は守山区社会福祉協議会へお尋ねください。

近くにスーパーや商店がなくて買い物が大変！という課題を解決する方法（例）

移動販売車の誘致

1　移動販売車とは?

近くにスーパーなどのない地域をまわって野菜や魚、お米などの生鮮食料品や日用品などの販売を行う車のこと。

2　どうやったら自分たちの団地に誘致できる？

周辺にスーパーなどがなかったり、買い物に困っている人が大勢いる地域にいて、移動販売車を誘致する場合、いくつかの業者に掛け合って調整します。

誘致にあたっては、

・誘致するには、地域住民の理解と協力が必要です。（広報・PR の協力）
・どのくらいの利用が見込まれるか。（ニーズの把握）
・他の地域での販売に出向き、直接交渉したり、人づてに依頼したりする場合もあります。（誘致のお願い）

ただし、販売の見込みがないと誘致に結びつかない場合も。誘致しても売り上げが上がらず、撤退を余儀なくされることも・・・。

3　移動販売をやってくれる業者は？

・コープ愛知…肉や野菜、総菜など
・ボンマルシェ…野菜や果物など
・豆腐屋や精肉店等の個人商店
・個人農家　など
・イオンやセブンイレブン、ローソンなど被災地や過疎地域などで移動販売を始めているところもあります。

団地内の支え合いの状況を把握する方法（例）

「地域支えあいマップ」

１　地域支えあいマップとは？

住宅地図上に高齢者、障がい者などその地域で何らかの支援が必要な世帯とご近所の住民等がどのように関わっているか、どんな社会資源を利用できるか等を図示したマップのこと。

地域の支えあい状況・支援の必要な人の孤立状況等がわかるので、今後の活動を考える材料としても活用できます。

２　マップづくりで用意するもの

・拡大印刷した住宅地図
・色マジック
・丸シールなど、目印になるもの

３　マップの作り方（例）

①町内会長や民生委員をはじめとした地域住民が集まる。

↓

②日頃から気になる方がいないかを話し合い、支援の必要な人や知人・友人・協力者にそれぞれシールなどで目印をつける

↓

③対象者と協力者などとの関係をそれぞれ線でつなぐ（友人…青、見守り…赤等色分けする）

※矢印とコメントで関係性を記してもＯＫ

↓

誰が支援を必要としているのか？誰が孤立状況にあるのか？等が分かります。

４　マップづくりのルール

★★支援を必要とする方々等が、知らないところで自分のことが話されていることを知って、不快に感じないように十分に配慮しましょう。

→マップづくりで知ったことは、けして口外しないようにします。

作成したマップは、必要最低限のメンバーが保管するなど、各地域において保管の仕方の取り決めます。

その他の情報

〇ボランティア保険（平成 30 年度）

・ボランティア活動保険

　ボランティア活動中の事故によりボランティア本人がケガをした場合や他人に対して損害を与え賠償責任が生じた場合を補償する保険。

　所属ボランティア団体の会則に則り企画立案された活動や社会福祉協議会に届出た活動、NPO 活動等が対象です。

　保険料は 250 円より。補償内容によって３つのプランがあり、天災も補償するプラン（保険料 400 円より）もあります。

・ボランティア行事用保険

　地域福祉活動やボランティア活動団体主催行事の参加者がケガをした場合や参加者に対して損害を与え賠償責任が生じた場合を補償する保険。

　保険料は 30 円/人（軽易な日帰り行事：参加者 20 名から対象）。

　他に主に運動等の日帰り行事プラン（保険料 134 円より）や宿泊行事を補償するプラン（保険料 202 円より）もあります。

・申込みは、お住いの区社会福祉協議会や市社会福祉協議会で受け付けます。

〇ボランティアセンターの活用

　ボランティアセンター（守山区社会福祉協議会内）は、区民のみなさんが、ボランティア活動を通じて「まちづくり」に参加するための窓口で、

・ボランティア活動に関する相談や紹介　・ボランティア活動に関する情報収集や提供

・ボランティア活動の支援　・ボランティアの養成　・福祉教育の推進

などをおこなっています。

　サロンの余興に来てくれるグループをお願いしたい。

　近所の高齢者の外出に付き添いしてくれる方をお願いしたい。

　自分も趣味を生かしたボランティア活動をしてみたい。　など

ボランティアに興味のある方は一度お問い合わせください。

第３次地域福祉活動計画　「団地」推進チーム

活動事例集

～団地や集合住宅での地域活動のヒント～

発行　守山区社会福祉協議会・第３次地域福祉活動計画団地推進チーム

平成３１年１月

守山区社会福祉協議会　TEL052-758-2011　FAX052-758-2015